

拠点大学交流事業年次計画（平成13～22年度）

(交流分野/研究課題) 乾燥地研究/中国内陸部の砂漠化防止及び開発利用に関する研究
 (日本側拠点大学) 鳥取大学乾燥地研究センター
 (相手国拠点大学) 中国科学院水土保持研究所
 (対応機関名) 中華人民共和国教育部(MOE)・中国科学院(CAS)

年度	全 体	小課題1: 砂漠化の過程と影響の解明	小課題2: 砂漠化防止計画の作成	小課題3: 適正技術と代替システムの開発	小課題4: 住民参加と環境教育に関する計画作成	小課題5: 緑化と環境保全のあり方に関する総合的研究
13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・日中合同して、本研究課題の成果目標、10年間の計画の作成、成果の取扱い等について協議 ・砂漠化ベンチマーク候補地の現地調査及び選定 ・合同セミナーの開催(開催地:日本) ・次年度の交流計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国研究者と共同して、10年間の年次計画及び具体的共同研究計画の策定を行う。 ・現地を調査し、ベンチマーク(標本)地域の選定を行う。 ・砂漠化データベース構築に必要な情報の入手方法・調査方法を検討する。 ・モニタリングの内容と継続のための方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国研究者と共同して、いくつかの候補地域を調査し、本課題のベンチマーク地域の選定を行う。 ・ベンチマーク地域の現地調査合同セミナー等を通して、本課題の詳細なテーマ設定、方法論について議論・検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国研究者と共同して、現地調査を行い、従来技術の問題点、導入が望まれる技術について討議し、研究課題を明確にする。 ・研究課題の遂行に必要な技術、情報、機材、人材等について検討し、研究体制の整備を図る。 ・合同セミナーを開催し、双方の協力体制、役割分担を含めて研究計画を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国研究者と一同に会して、本課題遂行の必要性、具体的目的、詳細な実施計画、成果のとりまとめ等について討議する。 ・現地を広く調査し、調査対象となるベンチマーク地域を選定する。 ・緑化の評価及び緑化計画の構築に必要な情報の入手方法・調査方法の検討を行う。 	
14年度～16年度	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づく研究の実施 ・課題別ワークショップの開催(開催地:日本あるいは中国) ・研究成果の内部評価 ・次年度の交流計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング体制を構築し、情報・データの取得、解析を行う。 ・砂漠化データベース構築に向けて、取得データのGIS化を行う。 ・毎年、何れかの国で課題別ワークショップを開催し、解析情報・意見の交換を行う。 ・小課題間の連携に必要な情報・意見の交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度の議論・検討を基に、砂漠化防止対策の検討と各対策及び課題3、4、5の成果の計量化、モデル化を開始する。最終年次まで継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に従い研究を遂行する。 ・毎年何れかの国で、研究打合せを行い、意見・情報を交換し、適宜、研究計画の修正を行う。5年次まで継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に従い研究を遂行する。 ・毎年何れかの国で、研究打合せや課題別ワークショップを開催して情報や意見を交換し、研究の到達段階、計画の軌道修正等を行う。4年次まで継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化がベンチマーク地域及び周辺地域の物理的、生物的環境に与える影響をモニタリングし、情報、データの解析を行う。 ・毎年何れかの国で課題別ワークショップを開催し、解析情報・意見の交換を行う。 ・小課題間の連携に必要な情報・意見の交換を行う。
17年度	<ul style="list-style-type: none"> ・合同セミナーの開催(開催地:日本、中国) ・研究成果の中間報告書の作成 ・外部研究者による研究の評価 ・後半5年間の研究計画の策定 ・次年度の交流計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同セミナーを開催するとともに、中間報告書を作成する。 ・5年間で得られた情報・知見に基づき、研究計画の見直しを行い、後半5年間の研究計画を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題1で提示された砂漠化モデルに、計量化、モデル化した砂漠化対策を盛り込み、シミュレーションを繰り返す。最終年次まで継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間の成果をまとめ合同セミナーを開催し、さらに討議して研究計画の見直しを行い、研究の方向性を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究の補足、合同セミナーや課題別ワークショップを両国で開催し、研究の中間報告を取りまとめ、公表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同セミナーを開催すると共に、中間報告書を作成する。 ・5年間で得られた情報・知見に基づき、研究計画の見直しを行い、後半5年間の研究計画を策定する。
18年度～21年度	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づく研究の実施 ・課題別ワークショップの開催(開催地:日本あるいは中国) ・研究成果の内部評価 ・次年度の交流計画策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証的モニタリングを行い、研究成果について他の課題との有機的連携を図る。 ・砂漠化地域の動態予測、土地分類・評価法の適正化を図る。 ・研究成果の修正、適用性を検討し、砂漠化モデルを構築する。 ・毎年、課題別ワークショップを開催し、解析情報・意見の交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記モデルに各課題で得られた最新の成果を盛り込み、モデルの修正、拡張を行う。最終年次まで継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間に確立した技術の実証試験ならびにその成果を踏まえての技術の改良を行い、導入可能な技術の完成を目指す。最終年次まで継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6～9年次においては、中間報告で明らかになった研究成果の弱点を補う研究や新たな追加的研究項目について研究を行う。 ・この間、毎年何れかの国で課題別ワークショップを開催して情報や意見を交換し、研究の到達段階、計画の軌道修正などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの継続を行い、研究成果について、他の課題との有機的連携を図る。 ・モニタリングで得られた情報を基に、環境保全方策及び緑化の評価を行い、緑化計画を構築する。 ・毎年、何れかの国で課題別ワークショップを開催し、解析情報・意見の交換を行う。 ・最終年次まで継続する。
22年度(最終年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・合同セミナーの開催(開催地:日本、中国) ・外部研究者による研究の評価 ・最終報告書の作成・公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同セミナーを開催し、研究の総括を行う。 ・最終報告書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な砂漠化モデルによるシミュレーションを通じて、総合的砂漠化防止対策を構築する。 ・この成果を基に中国政府の国家行動計画、砂漠化防止事業等へ提言・支援を行う。 ・合同セミナーを開催し、研究の総括を行う。 ・最終報告書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同セミナーを開催し、研究の総括を行う。 ・最終報告書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究成果を基に、新たな住民参加システムと環境教育システムの構築を行う。 ・これに関する合同セミナーを両国で開催し、ここでの意見も取り入れて最終報告書を作成する。 ・最終報告書は本課題に関する提言として広く世界に公表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同セミナーを開催し、研究の総括を行う。 ・最終報告書を作成する。